

## 杏林大学医学部 英語

2025年 1月 23日実施

### 【I】

- (ア) ③                      (イ) ②                      (ウ) ①                      (エ) ②                      (オ) ④  
(カ) ④                      (キ) ①                      (ク) ②                      (ケ) ①                      (コ) ③

#### [解説]

(ア) 後ろが形容詞 *useful* であることから, *no matter how*+(形)/(副)+SV~ の構文を作る。

(イ) *over the years* とあることから時制は現在完了。ここでの *see* は「〈時代・場所が〉〈変化・事件〉を目撃する」という他動詞の用法。

(ウ) *dwell on* ~ で「〈不愉快な事〉についてあれこれ考える, くよくよする」という意味の表現。

(エ) 文意を成立させられるのが②「~について聞いたことがありますか」しかない。④の *listen* は「(音楽などを能動的に) 聴く」の意なので不適。

(オ) *rest assured* で「安心する」という意味の表現。

(カ) 副詞 *ever* は, 最上級に類する表現 (ここでは *favorite*) と組み合わせることで「今まで (で最も~だ)」の意を表すことができる。

(キ) *as ~ as ...* の原級比較の構文。 *They were as different from each other as you and the person sitting next to you (are different)* という省略が起こっているものとする。

(ク) *It remains to be seen* ~ 「~はまだ分からない」という定型表現。

(ケ) *rearing* 「育てること」と並列し, 共通の目的語 *three children* に対して適切な文意を作れるのは *bearing* 「産むこと」しかない。

(コ) 「不足, 欠乏」を表す名詞 *want* の用法に注意。 *for want of* ~ で「~がないので」の意。

### 【II】

- A ②-③ (*how come he can't speak*)  
B ④-② (*advantages of double-income families outweigh*)  
C ⑤-① (*had my hair trimmed a*)  
D ④-① (*corrupts, do, get, stay, including*)  
E ④-① (*so lost, she, what Terry*)

#### [解説]

A “*how come* + 平叙文の語順” で「なぜ~なのか」を表す疑問文になる。

B *outweigh* は「~より重要である, ~に勝る」という意味の他動詞。

C 使役の *have* の基本的構文。 *a bit* は副詞的に機能し「ちょっと」の意を表す。

D 空所はいずれも離れているので, 文法・語法の問題というよりは単に意味が通るように穴埋めするだけである。

E *so ~ that SV* 「とても~なので SV」の構文であるが, この構文中の接続詞 *that* は省略されることがある。 *She was so lost in her thoughts that she scarcely heard what Terry*

said. と補って考えるとよい。

【Ⅲ】

A 次の2通りが考えられうる。

②－⑤ (③→②→①→⑤→④)

⑤－① (③→⑤→②→①→④)

B ①－④ (⑤→①→②→④→③)

C ①－② (④→①→⑤→②→③)

D ①－② (④→①→③→②→⑤)

E ③－⑤ (④→③→①→⑤→②)

[解説]

A 杏林大学は海外大学協定を締結しているという冒頭文の具体例として、1年生から4年生についての具体的な教育内容を述べた③が続く。⑤では6年生の教育内容について述べているので、その後ろに置かれるのは確定だが、プログラムの内容について詳述した①・② (①に also が存在することから②→①の順になるのは確定) を、③の具体例として置くのか、⑤の具体例として置くのかで迷う。⑤の最後に **participate in a clinical clerkship** とあることに注目すると、②の **interview patients**「患者を診察する」、①の **visits to a local clinic**「地元の診療所への訪問」は、いずれも臨床にかかわる行為であり、⑤の具体化とみることができる。しかし単に **the University of Leicester** という語句で結びつけることを考えれば、③と①に共通の表現があることから、③→②→①という流れも明快である。問いは「次の文章が自然な順序になるように並べ替えよ」という指示であることから、いずれもある程度妥当な論理性で読めてしまう以上、どちらが **better** かという次元の議論にはなれども、双方が正答となりうるのではないか。なお、杏林大学のウェブサイトを見ると、「レスター大学医学英語セミナー」「海外クリニカルクラークシップ」のうち、②・①で述べられているような学習活動を行うのは前者であると記されている (出典：[https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/feature/lp/global\\_medical](https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/feature/lp/global_medical)) ことから、大学側の意図している解答は③→②→①→⑤→④であると思われる。

B 列車遅延は煩わしいという冒頭文の背景として、我々が公共交通機関に依存している事実を述べた⑤が最初に来る。そして **Thus** という順接のディスコースマーカ―が続いて、遅延が生じた場合には不便が生じるという①をつなげる。**Naturally** (当然) 鉄道会社も **such an occurrence** (そうした事象) に対して策を講じているという②が続き、**However** という逆接を挟んで、自然災害といった不可避の事象もあるという④、最後にまとめとして、**Despite these happenings**「こうしたことがあるとはいえ」たいていの場合、公共交通機関は当てにできるという、まとめの③が来る。

C 時代は変化しているという冒頭文に続いて、その具体的内容として、ChatGPT など以前は存在しなかったという④が続く。それに対して逆接の **But** が続いて、今は多くの大学

が対応を余儀なくされているという①がつながる。具体的な問題提起として、⑤が先に来て、Or で始まる②が次に続く。最後に、まとめとして「こうしたことはほんの一例だ」という③が来る。

D 「迷子のようなですね」という A の発言を受けて、「本当にそうなんです」という④が続く。それに対しては「行き先を教えてください、お役に立てるかも」という①が応答として適切である。次に、③「市博物館です」と目的地を答える発言が続く。それを受けて、B が②「市博物館ですか？スマホを確認させてほしい」と述べ、最後に、⑤「とてもありがたいです。自分のスマホは充電切れでした」とつなげれば、自然な会話になる。

E 「聖堂にまだ近くないの？」という A の発言を受けて、④「ここあるいは、もう一つ先を左かな」が続く。空所（ケ）には、直後のカッコ書きに「地元の人と会話」とあるので、③「誰かに聞いてみよう」が入る。次のカッコには、A の「どうやらそのようだ」という応答を導く、①「聖堂は反対側ってこと？」が入る。そして、カフェから美味しそうなおいが漂っているという⑤が空所（コ）に入り、「迷子になって最高のチュロスを見つけるってのも悪くないね」ということで、最後に②が来る。

#### 【IV】

(英文 1)

(ア) ②                      (イ) ③                      (ウ) ④                      (エ) ②                      (オ) ①

【解説】

(ア)「文章によれば、Edmondson の研究が与えた帰結は何か」

②が第 2 段落第 3 文のパラフレーズになっている。Edmondson の研究は psychological safety に関するものだが、それが management, health care, education といった他の領域の academic research にも寄与したということ。④は psychologically ではなく physically 「身体的に」となっている点が不適。

(イ)「次のうちどれが空所（イ）を埋めるのに最適か」

空所後ろの記述、employees can do more working together than alone に対するパラフレーズが③である。他の選択肢は本文のテーマと大きくズレる。落としてはならない問題。

(ウ)「次のうちどれが空所（ウ）を埋めるのに最適か」

空所以降で説明されている Psychological safety, Dependability, Structure and clarity, Meaning, Impact の 5 つの要素を呼ぶ語としては、④ trait 「特性、特質」が最もふさわしい。

(エ)「文章によれば、完璧なチームを作ることについて正しいものはどれか」

上記でも触れた five traits の中身を参照して解く。②のうち feel their work matters が “Impact”, feel safe to take risks が “Psychological safety”, have clear goals が “Structure and clarity” で述べられた内容に合致するため、これが正答。

(オ)「次の文を置く場所として論理的に最も適するのはどこか」

与えられた文は指示語 It で始まっていることから、これの指し示す対象を探す。(1)に置けば、It = psychological safety という関係性が成立し文意を成す。(2)に置いた場合、It = Edmondson's work on psychological safety と捉えるのが自然であるし、Her research has shed ... とある次文とのつながりも悪い。(3)に置いた場合 It の指し示す対象が不明。(4)に置いた場合、It = Impact と捉えられるが上記の five traits の中の1つだけを指して essential だと述べるのは不自然である。

(英文2)

(カ) ③            (キ) ①            (ク) ④            (ケ) ②            (コ) ②

[解説]

(カ)「文章によれば、次のうちどれが動物集団についてあてはまるか」

第1段落第1文、and 以降に other animal groups can be led by a small number of motivated individuals. 「(魚は群れるが)、他の動物集団は少数の行動力ある個体に導かれる」とある。この内容に一致するのは、③彼らは本能的に少数のメンバーに従う、である。

(キ)「下線部(キ)が表すのはどれか」

下線を含む文は、「彼らが企てていることを他の誰にも言わずに、その二人の生徒は島の部分に到達したときに集団の先頭にいるようにした。それから、島の左を回るか、右を回るかを無作為に決めた」とある。be up to 「(通常良くないことを) 企てて」が分かれば判断は平易。

(ク)「文章によれば、実験者たちが sneaky (こそこそした・ずるい) と形容されたのは何故か」

正解は④。第1段落第2文に、「独創的な考えをもって、その生徒のうちの2人が、他の参加生徒を実験動物として使用して、これ(=動物は少数のメンバーに導かれるという著者の主張)を検証しようとした。」と書かれている。また、下線部(キ)の部分から、彼ら2人はこの実験をしていることを他の生徒に漏らしていないことも分かるため、内緒でこの実験を行ったと判断できる。ゆえに「こそこそと」この実験を行ったということになる。

(ケ)「下線部(ケ) defiant に最も意味が近いのはどれか」

形容詞 defiant は、「反抗的な・挑戦的な」を意味する。これに最も近いのは②である。

(コ)「次のうちどれが空所(コ)を埋めるのに最適か」

空所を含む文は「というのも、もしも他の生徒たちが少数のリーダーは影響を与えないことを示したいとすれば、彼らは彼ら(=残りの生徒)は右コースか左コースを(コ)歩いたはずだからだ。」と読める。第1段落最終文で、実験者である2人がこれまで密かに行ってきた実験を明らかにすると、他の生徒は自分たちが羊のように他の動物と変わらぬ「少数のメンバーに従っていた」ことを知る。これは第2段落第1文にあるように、彼らには受け入れがたい屈辱感を与えた。これを受けて翌日の行動が第2段落第2文以降に書かれており、その内容は「彼らは『自分は他の(盲従的な)動物とは違う』という反抗心から全員が

2人とは別のルートを選んだ。しかし、これもまた2人の想定内であった。もしも2人の行動が何の影響も与えていなければ、彼ら(=残りの生徒)は右コースか左コースを無作為に選んだはずだからだ。」と読める。つまり、反抗的態度をとるということで集団として同じ行動をしてしまったことになり、少数のメンバーが集団に影響を与えることを予測した2人の仮定が実証される内容となっている。

### 【総評】

大問構成・出題形式ともに昨年度と同一であった。文章量も依然として控えめで、ここ数年の易化傾向をキープした形となった。大問3の文整序、特に論説文のA~Cはやや解きづらく感じられるが、60分という解答時間に比して十分に余裕のある試験であることから、高得点域での戦いとなることが予想される。一次通過には75%程度の得点が望まれる。

本解答速報の内容に関するお問合せは



医学部専門予備校

**YMS**

heart of medicine

☎ 03-3370-0410 <https://yms.ne.jp/>

東京都渋谷区代々木 1-37-14

医学部進学予備校

**メビオ**

☎ 0120-146-156

<https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校

**英進館メビオ** 福岡校

☎ 0120-192-215

<https://www.mebio-eishinkan.com/>

メルマガ登録または LINE 友だち追加で全科目を閲覧

メルマガ登録



LINE 登録

